

## 道路保全課

### 1 維持管理の取組み

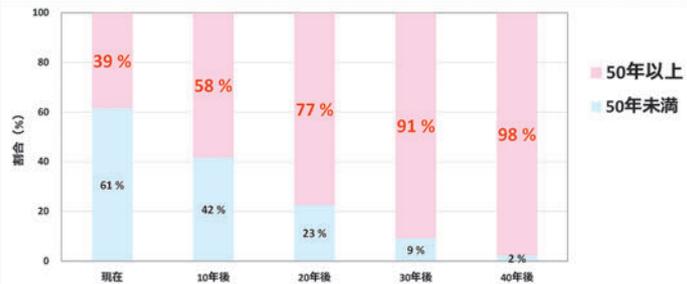
#### (1) 道路施設の高齢化対策

高度経済成長期や琵琶湖総合開発事業期間にあたる1960年代から1990年代にかけて、本県では、集中的に橋梁等の道路施設を整備してきました。今後、老朽化する道路施設の割合が急激に増加することから、維持管理にかかる費用を縮減・平準化する必要があります。



橋梁の損傷状況（防食機能の劣化）

【建設から50年が経過した橋梁の割合(2m以上橋梁)】

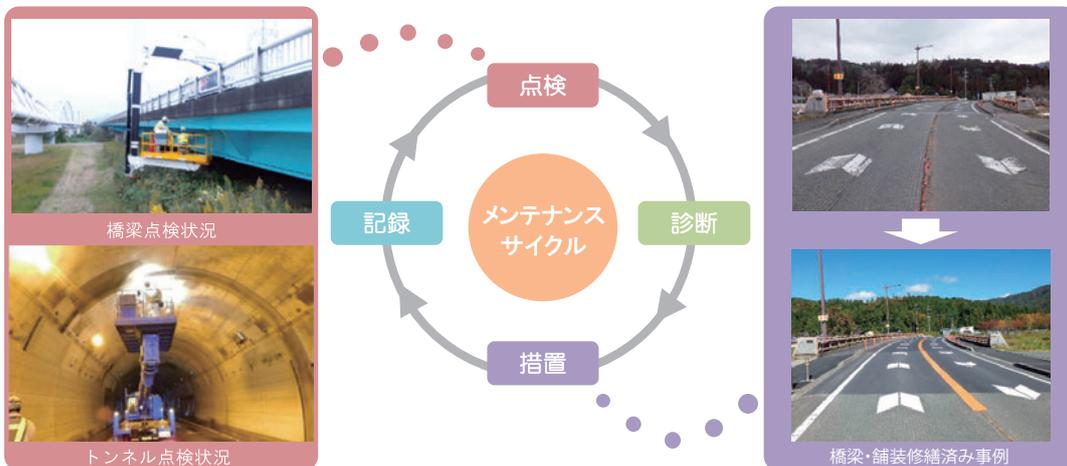


滋賀県における50年以上経過した高齢化橋梁は、2020年度は39%ですが、10年後には58%と半数以上が高齢化を迎えることになります。(2m未満橋梁・架橋年度不明橋を除く)

限られた予算で適切に道路施設の維持管理を行うために、予防保全の考え方を取り入れた修繕計画に基づき、計画的な修繕対策を行っております。

また、2014年度の道路法施行規則改正により、橋梁やトンネルなどの重要構造物について、5年に1度の施設点検が義務づけられ、点検に基づく修繕事業とあわせたメンテナンスサイクルを計画的、持続的に行うことで、効率的な維持管理の取組みを進めているところです。

2018年度に施設点検の一巡目が終了し、次はそのデータを生かし戦略的、効率的な修繕等を推進する「メンテナンスのセカンドステージ」に入っています。



#### (2) 道路の日常管理

県では、日常的な取組みとして、定期的にパトロールを実施し、必要に応じて補修等の対応を行っています。

冬季積雪時は、国や市町と情報共有を図り、迅速かつ適切な除雪活動により、安全に通行できるよう努めています。また、地域の団体などに委託して道路の植栽管理や除草をお願いする道路愛護活動など、県民や企業の皆様と協働して維持管理を行う『美知普請』に取り組んでいます。



道路パトロール



冬季の除雪作業



道路愛護の取組み

## 2 安全・安心な自転車利用の取り組み

自転車は、環境や社会に対する負荷が少なく、子供から高齢者まで幅広い年齢層に親しまれる健康的な交通手段です。

滋賀県では、更なる自転車の活用推進が図れるよう、令和5年3月に「第2次滋賀県自転車活用推進計画」を策定し、「ピワイチ」をはじめとする自転車を利用した「観光振興」や「通行空間の整備」、自転車事故のない「安全で安心な社会の実現」、健康長寿県である本県の更なる「健康増進」等に繋がる取り組みを行っています。

また、「ピワイチ」は、令和元年11月に国が創設したナショナルサイクルルート※の第1次指定を受けており、コロナ禍においても、屋外で密を避けて楽しむことができる観光コンテンツとして注目を集めてきました。

今後もより安全・安心な「ピワイチ」を楽しんでいただくため、自転車通行帯の整備や適正な維持管理に努めていきます。

※国が指定する日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルート



案内看板の整備



自転車通行空間の整備（近江八幡市・米原市）



## 3 交通安全対策

### (1) 交通安全県民総ぐるみ運動の推進

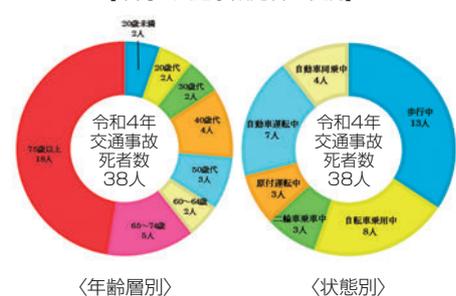
令和4年中、滋賀県内の交通事故死者数は38人（前年比+1人）でした。令和5年の抑止目標として「年間の交通事故死者数37人以下、重傷者数320人以下」にすることを掲げています。

「交通事故のない滋賀」を目指すために、県民総ぐるみで交通安全運動を展開し、県民の交通安全意識の高揚を図ります。

運動の重点

- 高齢者および子どもの交通事故防止
- 歩行者および自転車の安全確保
- 生活道路および交差点における安全確保
- 全席シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 飲酒運転、妨害運転等の危険運転の根絶

【県内の交通事故死者の状況】



### 令和5年度滋賀県交通安全スローガン

事故ゼロに！ 思いはひとつ 滋賀の道  
 通学路 ゆずる笑顔の 滋賀ナンバー  
 じてんしゃも ほこうしゃゆうせん ままろうね

### (2) 高齢者と子どもの交通事故防止

令和4年中の県内における高齢者（65歳以上）の交通事故発生件数は896件発生し、前年より13件減少しました。また、子ども（中学生以下）の交通事故発生件数は121件発生し、前年から3件減少しました。

全交通事故死者38人のうち高齢者の死者は23人で60.6%を高齢者が占めており、子どもの交通事故も未だに多く発生している現状から、高齢者と子どもの安全確保に向けた取組をより一層推進します。



## 4 自転車の安全で適正な利用の推進

滋賀県では、平成28年2月に「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を施行し、自転車の安全利用に向けた取り組みを推進しています。

自転車事故の発生件数は増加の傾向にあり、自転車が加害者となる事故や利用者のルール・マナー違反があとを絶たないことから、より一層の自転車の安全対策に取り組みます。